

5/19 合同会見 高木毅復興大臣スピーチ

(5/19 (木) 15:45~16:20 於：仙台国際センター)

(はじめに)

復興大臣の高木毅です。

日本、そして宮城県にようこそお越しいただきました。

ここ宮城県は、5年前の2011年3月11日に発生した東日本大震災で大きな被害を受けたところです。

そして宮城県を含む東北地方は、紀元前2千年よりさらに前である、縄文時代の遺跡が多く出土しており、日本の源流とも言われています。

日本人はふるさとを大事にする国民です。我々は、津波や地震で家を失った人、あるいは、原子力災害で家を離れている人が、自分たちのふるさとを取り戻せるような復興事業に、国一丸となって取り組んでいます。

本日、私からは3点、

- 第1に、震災からの復興は着実に進捗していること、
 - 第2に、多くの外国人の方に東北地方を訪れていただきたいということ、そして
 - 第3に、食品の安全に向けた我々の取組
- について、お話しします。

(復興の現状全般)

日本は、先月熊本で大きな地震が起こったように、地震の多い国ですが、中でも東日本大震災は、大規模な地震と、「1000年に1度」とも言われる津波、そして原子力事故という3つの要素が重なった複合災害でした。

この未曾有の大震災からの復興は、非常に大規模で困難な事業ですが、国内外の支援、そして、被災した人々や自治体自らの努力によって、復興は着実に進んでいます。ここで改めて、G7の各メンバーから多大なる支援をいただいたこと

に謝意を表します。

道路や鉄道等のインフラ復旧は、ほぼ完成しました。元の家を離れている人の数は、ピーク時の47万人から3分の1近くの17万人以下にまで減りました。とはいえ、依然として家を離れている方がおられますので、住宅の再建に更に力を入れます。

また、ハード面の復旧に限らず、ソフト面の復興、特に、産業・生業の再生にも力を入れていきます。私はカキが好物なのですが、宮城県南三陸町のカキ養殖場は最近、環境に大きな負担をかけず、持続可能性に配慮した養殖業であるという国際的な認証を受けました。震災の被害を受けたところは、元々、水産業・水産加工業が盛んな地域でしたが、こうした伝統的な産業が復活し、更には、新しい産業が生まれ、経済の復興を後押しするような取組を進めます。

（福島再生）

福島の状況は、残念ながら岩手や宮城とは異なります。しかし、福島第一原発の事故の影響を受けて住民に避難指示が出ているのは県の面積の7%、日本全体から見れば0.3%であり、それ以外の地域では、人々は普通に暮らしています。

福島第一原発においても、原子炉は冷温停止状態にあり、廃炉に向けた作業が進んでいます。汚染水対策も着実に進んでおり、汚染水の影響は、福島第一原発の港湾内に完全にブロックされています。

また福島では、太平洋沿岸地域にロボットを活用した新しい産業を集積させ、国際研究都市にしよう、あるいは、水素やバイオマスといった再生可能エネルギーの地にしようという新しい動きもあります。

福島県の三春町には、廃校を利用したアニメの制作会社も出来て、私も訪れました。アニメは日本の誇るサブ・カルチャーですが、三春が、アニメの聖地として、若者が集う町になることを期待しています。

県内に残っている避難指示も、一部線量の高い区域を除き、今後1年間で解除

していく方針です。除染やインフラ整備を続け、ふるさとに戻りたい人が戻れる環境づくりを進めます。

原発事故の影響も緩和されてきており、福島県の空間放射線量は、この5年間で65%減少しました。福島第一原発に近く、避難指示が解除されたばかりの楢葉町を含め、県内の多くの場所では、空間放射線量は諸外国の都市とほぼ同じ水準にあります。

5年前の映像が鮮明に残っている方もおられるかも知れませんが、状況は大きく変わりました。皆さんの目でも直接確かめていただきたいと思います。

（観光復興）

さて、昨年度訪日した外国人は2000万人を突破し、空前のインバウンド・ブームと言って良いと思いますが、残念ながら東北はその勢いに追いついていません。

私は、被災地を更に盛り上げるためには、多くの外国人の方に東北を訪れてもらうことが重要だと考えています。

そこで政府は今年を「東北観光復興元年」と名付けました。東北6県には、岩手県の世界文化遺産である平泉、福島県大内宿の雪まつり、明日からの会合の会場となる秋保温泉をはじめ、多くの素晴らしい温泉、その他、被災地以外にも、様々な魅力があります。

ジャーナリストである皆様には、今回東北地方を見ていただき、是非、その魅力を発信していただきたいと思います。

（食の安心・安全）

一部の外国の方は、福島を始めとする東北地方の食品に懸念を有しておられるかも知れません。しかし我々は、世界で最も厳しいレベルの基準値に基づいて、食品の放射性物質検査を行っています。

福島県の米は、一袋一袋検査をしています。このような厳しい検査を通ったも

のしか、市場には出回らず、ましてや外国には輸出されません。

米と海産物は過去１年間、肉と野菜、果実については過去３年間、全て検査を合格しました。

皆さんが仕事をされるプレスセンターでも３県の食材をいくつか用意しましたので、是非召し上がっていただきたいと思います。

依然として日本の食品の輸入に規制をかけている国がありますが、我々は食の安全については妥協しません。

（おわりに）

東北の復興なくして、日本の再生なし。

日本では、２０１９年にラグビー・ワールドカップが開催され、岩手県の釜石市でも試合が行われます。２０２０年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。

国際的に日本に注目が集まるこれらの機会も見据えながら、復興を加速させ、「新しい東北」を築いていきます。

そして、皆様を含めた世界の多くの方に、東北が復興した、日本は震災前よりも更に豊かになった、ということを見て頂きたいと思います。諸外国の皆様にも、日本の復興への応援を引き続きよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。